

★富津市小・中学校再配置計画(案)の基本的な考え

少子化が進む中で、同学年同士での交流や体験の場が失われつつあります。その中で、極端に児童生徒数が減少してきている学校も出てきています。そこで、富津市教育委員会では、富津市の未来を担う子どもたちに、同学年の多くの仲間たちの考えや行動に触れ、多様な経験を積むことのできる教育環境を整備していきたいと考え、富津市小・中学校再配置計画(案)を策定しました。

小学校においては、1人の先生が同時に2つの学年の授業を受け持たなければならない「複式学級」の解消を、中学校においては、部活動・学校行事・授業等での切磋琢磨の機会を増やし、同時にクラス替えも可能になるようにと「学年1学級」の解消をめざしています。

★これまでの説明会における主なQ&Aについて

これまでPTA役員、保護者、地区でそれぞれ説明会を実施してきた中で、皆様より寄せられた主な質問・ご意見に対する主な回答は次の通りです。

(1) 学校再配置の考え方について

Q1：小規模校がよいのだが。

A：小規模校には小規模校の良さがあることは理解しています。対象となる学校はきわめて少人数の学級になっており、教育委員会では、通学条件等を整備することで多くの学校の仲間と意見交換したり、切磋琢磨する機会を増やすとともに、幅広い人間関係を学べる場を提供し、さまざまな経験を積んでほしいと考えています。

Q2：通学に時間をとられ、子どもにとって大切な遊ぶ時間が確保できなくなるのではないか。

A：現行より通学に要する時間が長くなることは考えられますが、多くの仲間のいる学校に通い、多様な経験を積むことも貴重な経験であると考えます。

Q 3 : 統合が決まれば、それより先に統合先の中学校への転校、入学を考える保護者が出てくるかと思うが。

A : 下級生がいなくなってしまうのは、学校運営上厳しいものがあります。一緒になったときの不安が払拭できるように交流授業、合同行事を企画するなど、学校と協力しながら、時間をかけて努力していきます。

Q 4 : 希望すれば、再配置以前に転校することは可能か。

A : 入学指定校の変更、転校については、これまで通りのルールの中で判断をしていきます。

(2) 再配置計画(案)の最終判断時期及び判断基準について

Q 5 : 再配置計画(案)の(案)を外すにあたっての判断基準は何か。

A : 保護者説明会や地区説明会での意見やアンケート等を参考に、「一定規模の児童・生徒が集える学校」を整備することについて、概ね保護者の方々に理解されたと判断された時に外していきます。

Q 6 : 再配置計画(案)の(案)は、いつ外すつもりか。

A : 様々な状況に照らし合わせて考えていくと、近いうちに判断を下さなければならぬと考えています。

(3) 市における人口減少、過疎化の懸念について

Q 7 : 富津市の人口減少への対策は。

A : 現在、富津市では 2040 年の人口を見通して、「富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に取り組んでいます。具体的には、富津市の魅力発信を通じて地元への愛着を持つ人を増やすこと、交通の利便性を高め、移住者受け入れの環境整備、出産・子育てしやすい環境整備、雇用の創出、地場産業の振興、観光の振興などに取り組んでいます。

Q 8 : 過疎化が進んでいる。子どもが増えるようにした方がよい。

A : 「富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」により、各部署で対策を実施します。今後、第3子以降保育料無料化など、子育てしやすいまちづくりを進めていきます。

(4) 再配置実施後の問題について

Q 9 : 統合なのか、吸収なのか。再配置後の校名はどうか。

A : 統合と考えています。再配置後の校名については、保護者や児童・生徒、公募等による意見をもとに検討委員会で協議いただき、最終的に教育委員会で決定します。

Q 10 : 再配置により、急激に環境が変わった時に子どもたちの心情が心配である。

A : ①再配置以前に交流授業、合同行事の開催を進めていくことで、互いを理解する機会や顔見知りを増やしていけるように取り組んでいきます。
②友人関係等スムーズな交流が図られているか等、状況を十分に把握し、教育相談活動を充実させていきます。
③スクールカウンセラーの活用と対象校からの職員の異動に配慮して対応していきます。

Q 11 : 交流学习は、時間的に教育課程への影響はないか。

A : 「道徳」や「算数」などの授業による交流を進めていくので、授業時数の確保について心配はないと考えています。

Q 12 : 統合後の子どもたちと地区との連携や交流について。

A : 子どもたちの健全育成には、家庭・学校・地域が連携して取り組むことが大切であると考えます。地域で行われる児童・生徒が参加する行事においては、以前にも増して地域からも積極的に声かけをお願いしたいと思います。

Q13：スクールバスは運行するのか。

A：竹岡小、金谷小、天神山小の相川、不入斗の児童、佐貫中、天羽中の金谷地区、竹岡地区、天羽東中の生徒についてはスクールバスの運行を予定しています。また、スクールバスは無料です。

Q14：スクールバスの運転手の健康、災害時の安全管理について、どう担保するのか。

A：安全管理については、災害時の対応も含めて委託業者へ安全管理の徹底をお願いしていくとともに、市でも独自に状況把握を行うなど安全管理を図っていきます。

Q15：小学校低学年児童の、スクールバスでの通学に不安があるのだが。

A：スクールバスでの登下校に際し、トイレや車酔い等の不安があるという意見もありましたが、現在も新入生に対応しているように、スクールバスでの登下校についても、慣れるまでの間、保護者の皆様や先生方にご協力をいただきながら、児童・保護者のみなさんの不安を解消できるように努めます。

Q16：通学路の安全確保に向けた取り組みを進めてほしいのだが。

A：通学路の安全確保については、毎年保護者や学校からの報告を受け、対応をしています。学区の変更に伴う新しい通学路について、スクールバスの経路も含め、改めて点検を行い、今後も安全な通学ができるよう努めていきます。

Q17：早退など、何かあったときにすぐに迎えに行けないが。

A：体調の悪化などの際には、保護者と連絡を取り合いながら、必要な措置を講じていきます。

Q18：統合後、閉校した跡地の避難場所はどうなるのか。

A：避難場所としての機能が果たせるような形での跡地の利用も含め、避難場所は必ず確保していきます。

Q19：学校跡地の管理と利用をどう考えているか。地元の意見を取り入れてほしい。

A：利用については、各地域の振興に係る有効利用に向け、地域の声に耳を傾けながら、地域の特性や立地条件等を踏まえつつ、有効利用の方法について検討を進めていきます。また、その間の管理については、地域住民の皆様の迷惑にならないよう教育委員会で適切な管理に努めていきます。

(5) 個別の計画を進める上で保護者に課題意識の高い内容について

Q20：中学校入学時から新しい学校の制服・ジャージ等が購入できれば、再配置後も統一感が出てよいと思うが。

A：各学校の計画については、個別計画で対応します。制服・ジャージについては、平成30年度新入生の入学に間に合うように早めの提示を心がけていきます。

Q21：中学校が統合した後の部活動はどうなるのか。

A：中学校間で協議し、示していきたいと思います。また、各学校で1・2年次に所属していた部活動については、最後の大会まで活動が続けられるように配慮を各学校にお願いしていきます。

(6) 天羽中建設に関わる問題について

Q22：統合した場合でも天羽中の生徒は今後も減少していくことが考えられる。その場合、また統合を計画するのか。

A：富津市は学区が大変広く、人数だけで考えるのではなく、通学時間、交通手段なども考慮していかなければなりません。中学校については、富津地区、大佐和地区、天羽地区にそれぞれ1校と考えています。

Q23：天羽中改築に関わって、生徒の活動場所は、天羽東中や湊小など、今ある校舎を使うことはできないのか。

A：他校への移動案、新築移転案等複数案について協議してきましたが、時間、スペース、コストなどを勘案した結果、湊小への移転が適当であると判断しました。

Q24：天羽中の新校舎、道路整備、建設場所等について。

A：天羽中は建築から49年が経過しており、校舎が老朽化しています。平成21年度に行った耐震補強工事は、生徒の安全・安心を最優先するために実施しました。校舎の建築については、長期的スパンで計画しており、老朽化している校舎の建て替えとして現在の場所に建築する予定です。体育館、武道場は現在のものを使用していきます。また、建築に伴う周辺道路の整備も検討しております。

(7) その他、各地区に関わることについて

Q25：大貫中に武道場は建設されないのか？ その場合に剣道部や卓球部はどうなるのか？（佐貫）

A：現在のところ、大貫中への武道場建設の計画はありません。練習場所については、新しい学校の方で工夫していただくこととなります。

Q26：中学校入学時に天羽中・天羽東中が一つの状態であるなら、環小学校も他の4小学校と同様に再配置に加えてもらいたい。（峰上）

A：保護者の意向を把握するとともに、地域の方々の意見を伺いながら検討を進めていきます。

Q27：現在、まちづくりを行っている最中でもあり、若者の移住者や移住を考えている者も大勢いる。もう少し、再配置を待てないか。（金谷）

A：子どもたちの教育環境整備を中心に考えています。現在の人数が極端に少なすぎることから、改善が急務であると考えています。